マンガでわかる 社会資本を活用した地域づくり

国土交通省 総合政策局公共事業企画調整課
〒100-8918 東京都千代田区霞が関2丁目1番3号
TEL 03-5253-8111（代表）

手づくり郷土賞ホームページ

手づくり郷土賞 Face book

手づくり郷土賞

2022.4

国土交通大臣表彰

手づくり郷土（ふるさと）賞

社会資本を活かした
魅力ある地域づくりを応援！

Since 1986

国土交通省
Ministry of Land, Infrastructure, Transport and Tourism

「手づくり郷土賞」とは

日本の各地で、地域特有の自然や歴史、伝統、文化や地場産業等を貴重な地域資源として見直し積極的に利活用した、魅力ある地域づくりの事例が数多く生まれています。
「手づくり郷土賞」は、このような地域活動によって地域の魅力や個性を生み出している良質な社会資本とそれに関わった団体のご努力を表彰するものです。また、これらの好事例を広く紹介することで、各地で個性的で魅力ある郷土づくりに向けた取組が一層推進されることを目指しています。
「手づくり郷土賞」は昭和61年度に創設され、35年以上続いている国土交通大臣表彰です。

手づくり郷土賞ホームページ

年度別の受賞案件紹介パンフレット

手づくり郷土賞
ホームページ

「手づくり郷土賞」の選定対象

手づくり郷土賞（一般部門）

選定対象　地域の魅力や個性を創出している、社会資本及びそれと関わりのある地域活動が一体となった成果

選考のポイント

1. 社会資本の整備・維持管理・利活用にあたっての創意・工夫
   （地域特性を踏まえた整備・維持管理上の工夫、地域資源としての活用・育成 等）
2. 地域活動における創意・工夫、取組の独創性
   （新しい発想、住民自ら考え工夫を凝らした取組 等）
3. 地域づくりへの成果及び波及効果
   （地域への思いに富んだ取組、地域づくりの枠を越えた効果 等）
4. 今後の活動の継続性・発展性
   （住民が長く活動を続けられる仕組み、周囲を広く巻き込む工夫 等）
5. 他の参考となるような先進性・先導性
6. その他（上記以外の特に優れた内容）

手づくり郷土賞（大賞部門）

選定対象　一般部門を受賞した後、なお一層の活動の充実が行われるなど、継続的に魅力ある地域の実現に寄与しているものを選定

選考のポイント　一般部門の選考のポイントに加え、大賞部門においては以下のポイントも重視しています。

7. 社会資本の地域への定着状況
   （地域のシンボルとして広く認識されている、多くの地域住民が日常的に利用している 等）
8. 活動の継続状況（規模を広げながら着実に継続している 等）
9. 活動の発展状況（新たな取組を創出している、他地域へ波及している 等）

募集方法と選定

応募

社会資本※を有効活用し地域づくり等に取り組む活動団体が単体、又は社会資本を管理する団体（都道府県、市区町村 等）との共同で応募するものとします。
応募要領（募集期間、提出先 等）は、各年度の募集開始時にホームページに掲載します。
※原則として社会資本は国土交通省が所管する分野

選定

応募資料をもとに、学識者等からなる「手づくり郷土賞」選定委員会による厳正な審査をした上で受賞団体を選定

受賞団体には認定証等を授与、受賞記念発表会も開催

受賞団体には、国土交通大臣表彰として認定証が授与されるとともに、副賞として盾を贈呈しています。
また、受賞団体による活動紹介（プレゼンテーション）を通じて全国に優れた取組が広がることを目的に、受賞記念発表会を開催しています。発表会では、手づくり郷土賞選定委員会による審査や観覧者による投票によりベストプレゼン賞等を決定しています。

認定証

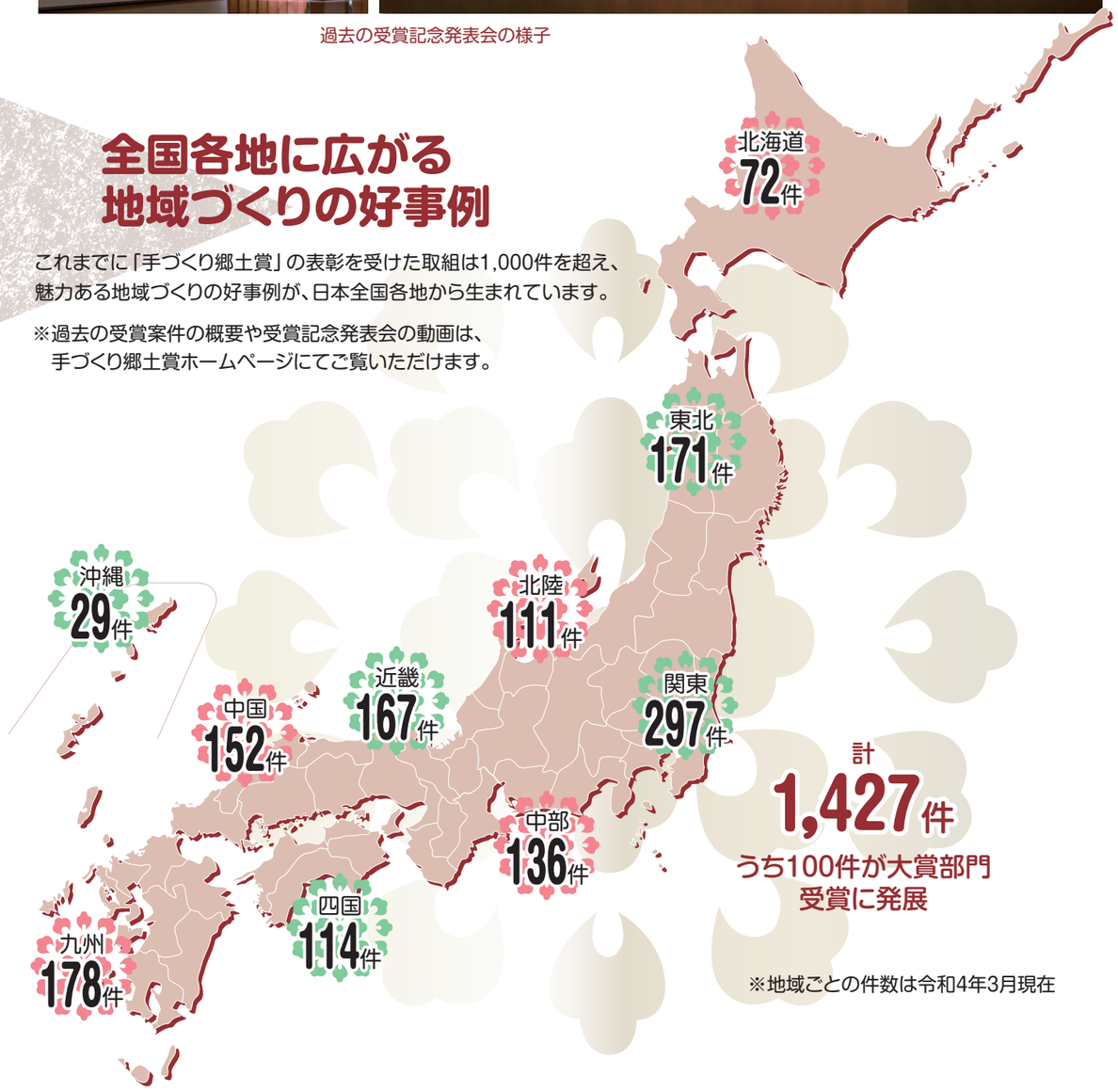
副賞（盾）

過去の受賞記念発表会の様子

全国各地に広がる地域づくりの好事例

これまでに「手づくり郷土賞」の表彰を受けた取組は1,000件を超え、魅力ある地域づくりの好事例が、日本全国各地から生まれています。

※過去の受賞案件の概要や受賞記念発表会の動画は、手づくり郷土賞ホームページにてご覧いただけます。



※地域ごとの件数は令和4年3月現在

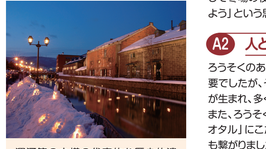
「手づくり郷土賞」受賞団体に聞く地域づくりのポイント

Q1 活動をはじめたきっかけ・経緯について　Q2 活動の拡大等に向け工夫した点について　Q3 継続的な活動による効果や今後の展望について

小樽雪あかりの路

活動団体：小樽雪あかりの路実行委員会／小樽市
社会資本：小樽運河、手宮線跡地（旧国鉄手宮線）

平成30年度大賞部門（平成16年度一般部門）



運河等の小樽の代表的な歴史的遺産を活用して冬の夜間を魅力的にし経済の活性化に繋げたいと考え、毎年2月に「小樽雪あかりの路」を開催している。

A1 観光客が少ない冬の魅力づくりに向けた、街並み景観の有効活用

イベントを始めた当時の小樽観光は、季節の繁閑格差が大きく、冬場は観光客が少ないという課題がありました。また、通過型の団体旅行がメインのため、地域への経済効果が十分に得られていない状態でした。そのため、「街並み景観を有効活用して冬場の夜の魅力づくりをしよう」、「市内全体を会場として経済活性化に繋げよう」という思いから、本イベントを開催することとなりました。

A2 人と人とのふれあいを通して、市民参加型イベントへ成長

ろうそくのあかりのみによる演出を厳しい寒さの中で行うことは、相当な労力が必要でしたが、その様子を見た観光客から声をかけられるなど、人と人とのふれあいが生まれ、多くのボランティアが参加する市民参加型のイベントへと成長しました。また、ろうそくや運河に浮かべる浮玉など、イベントで使用するものを「メイドインオタル」にこだわったことで、地域資源に光が当たり、地域住民の郷土愛の醸成にも繋がりました。

A3 国内外ボランティアを巻き込みながら、国際観光都市としての魅力向上へ

当イベントは、様々なコンテストを開催することで演出方法を参加者自らが考えるなど、ボランティアや地域コミュニティが楽しんで参加出来る仕組みが構築されています。また、多くの海外ボランティアも参加し、小樽の魅力を自国で発信してくれるなど、国際的な観光PRにも繋がっています。本イベントを今後も継続的に開催していくことで、国際観光都市・小樽としての魅力向上に繋げていきたいと考えています。

・北海道 小樽市・

あかりを灯すボランティア

工夫を凝らしたオブジェ

多数参加する海外ボランティア

明治の遺産を活用した手づくり鉄道博物館

～明治のレトロモダンを未来に継承～

活動団体：小坂鉄道保存会／小坂町
社会資本：明治百年通り（一級町道停車場線）

令和2年度大賞部門（平成18年度一般部門）

旧小坂鉄道の駅舎や車両を、産業遺産として保存・活用する小坂鉄道レールパークで、車両や設備を活用した体験観光プログラムのほか、観光トロッコ運行や「小坂・鉄道まつり」などイベントの企画運営に協力している。

A1 街道のにぎわい創りとの融合から発展した鉄道保存活動

平成6年の旅客列車廃止以来、小坂鉄道を守り育てようと生まれた「鉄道の日イベント実行委員会」が、町が進める「明治百年通りにぎわい創りプロジェクト」に賛同したのがきっかけです。
平成21年の鉄道廃止後に、明治百年通りに新たな観光資源を加えるためのレールパーク構想の実現と町の活性化をめざして活動を本格化し、平成25年に「小坂鉄道保存会」が発足されました。

A2 小坂鉄道ファンによるおもてなし演出で幅広い層に魅力発信

小坂鉄道保存会は、レールパークの担い手として、小坂鉄道ファンたちが全国の仲間たちに呼びかけて結成された団体で、ボランティアである保存会と町、指定管理者が三位一体となって邁進しています。
レールパークのオープン以降、鉄道ファンのほか若いファミリー層の観光客が増え、保存会員が制服姿で行うディーゼル機関車運転指令や車掌業務は、産業遺産と明治百年通りの魅力を伝えています。

A3 「魅せ鉄」から地域やファンを巻き込んだ保存活動へ

コロナ禍の中での大賞受賞でしたが、元気をなくしていた地域に明るい話題をお届けすることができました。「魅せ鉄」でのおもてなしで、リピーターも着実に増えており、地域経済への貢献度もますますアップしています。
今後は「魅せ鉄」に加え、地域住民や鉄道ファンの方々にもご協力いただきながら車両修復や保線活動にも取り組み、小坂町の魅力を多くの方々に伝えてまいります。

・秋田県 小坂町・

明治百年通りお花見観光トロッコ運行

ブルートレイン体験乗車で
気分は本物の駅員と車掌さん

保存会員が「魅せ鉄」で
お客様をお見送り

城下町松代に学び、城下町松代を育む

活動団体：松代文化財ボランティアの会／長野市
社会資本：城下町松代の歴史的建造物

令和元年度大賞部門（平成18年度一般部門）

文化財を自ら調査研究すると共に、子供から訪日客に至るまで多くの方々に歴史豊かな城下町松代の魅力を発信している。

A1 文化財調査から地域文化の振興に向けた活動へ発展

真田宝物館が文化庁の委嘱を受け開講していた、文化財の理解と次世代への継承を担うボランティア養成講座の受講生を中心に城下の文化財調査が始まり、平成13年に県内初のミュージアムボランティアとして会が発足。松代町内にある多くの（様々な）文化財を調査し、広く紹介する活動を通して、地域文化の振興への寄与を目的に活動を開始しました。

A2 会員自らの「学び」による自発的活動が魅力発信の原動力に

城下町・松代は、歴史や建造物など多くの文化財を有したフィールドで、会員の個性や能力を活かした多様な活動が可能でした。加えて、自らの「学び」を基本とした自発的な姿勢が、単なるガイドにとどまらない活動の原動力となり、独自の視点で作成した冊子や、子供向けイベントが好評です。平成31年度からはインバウンド対応にも力を入れ、より多くの方々に魅力を伝えています。

A3 文化財を「見るだけのもの」から「活用しながら維持・保存するもの」へ

城下町・松代を拠点とするミュージアムボランティアとしての20年に及ぶ活動は、地域における文化財の認識を「見るだけのもの」から次第に「活用しながら維持・保存するもの」へと変化し、住民参加、学校教育との連係、行政による町並み整備などとあいまって、城下町松代全体に広がりをみせています。
今後は、記念事業などの大きなイベントが控えており、これらに向けた研修に力を入れています。

・長野県 長野市・

古文書調査の様子

箏の演奏体験の様子

「ボランティア視点」が好評の出版物

手づくり魚道の完成が出発点！

～SDGs時代の川との付き合い方～

活動団体：駒生川に魚道をつくる会
社資本：一級河川網走川水系支流駒生川

令和3年度大賞部門（平成27年度一般部門）

落差工の設置により姿を消した、駒生川上流の魚を呼び戻すための魚道づくりをはじめ、河川水中のマイクロプラスチック調査、手軽さを兼ね備えたポータブル魚道の開発・設置などを実施している。

A1 上流から姿を消した魚たちを呼び戻すための魚道づくり

近年、宅地化や農地化が進み、駒生川は直線化され、それに伴って流速を落とす目的で9基の落差工（小型のダム）が造られました。その結果、魚たちが川の中を自由に移動することができなくなり、落差工上流から姿を消しました。この事にショックを受けた会長の「上流に魚を呼び戻そう」との呼びかけに共感したメンバーが中心となり、手づくり魚道の取組がはじまりました。

A2 自然学習の充実や手軽な魚道開発でSDGsのさらなる推進へ

手づくり魚道の作成により、約40年ぶりに魚が遡上し、稚魚の誕生が確認できました。稚魚に対面した瞬間には、原風景が戻ったと、涙を流して喜ぶ会員がいました。
一般部門受賞後は、子供たちを対象とした川での自然体験活動の充実、専門家による優れた学習機会の提供をはじめ、より簡単で安価なポータブル魚道の開発、マイクロプラスチック調査及び流域一斉清掃など、SDGs（持続可能な開発目標）に係る活動のさらなる発展に取り組みました。

A3 人間と生物が折り合いのつく形で共生する自然を目指して

手づくり魚道の取組は、道内外からの視察もあり、駒生川の事例を参考にして各地で手づくり魚道が完成しています。
今後は、次世代に豊かな自然環境や資源を残すべく、子供達を対象とした体験活動を実施など様々な活動を、継続して取り組んでいきます。また、川を原生自然に復元するのではなく、人間と生物が折り合いのつく形で共生する自然を目指していきます。

・北海道 美幌町・

木材を使った魚道

魚道の完成を喜ぶメンバー

ポータブル魚道（ドジョウ）

学生が直撃!! 受賞団体インタビュー

令和3年12月18日に開催した「手づくり郷土賞受賞記念発表会2020-2021」では、令和2年度一般部門受賞団体「北国街道野々市の市」の発表者としても参加した金沢工業大学の学生の皆さんにより、各受賞団体などへのインタビューを実施しました。地域づくりの将来を担う若者の目線で、魅力ある地域づくりを行うためのポイントを取材いただきました。

金沢工業大学学生の皆さん
（左から泉さん、島崎さん、山岸さん）

受賞団体の発表者としても参加

周囲を巻き込み連携していくことが、魅力的で継続性のある地域づくりのポイントに

鹿島市ラムサール条約推進協議会さんにインタビュー

Q 活動内容は、どのような流れで考案されているのでしょうか？

A 基本的には我々協議会が考案していますが、職員が少ないので、協力してくださる多くの個人・団体からのアイデアや提案なども幅広く収集しながら、取り組んでいます。

小坂鉄道保存会さんにインタビュー

Q 活動をとりまとめることの難しさはありますか？

A 元々はそれぞれ地元で事業をしていたので、地元負担が大きかったのですが、周りを巻き込んで取り組もうとしたら様々なところから人が集まってきて、負担が減りました。

Q 活動の中で大変に感じることはありますか？

A 苦しいとか、嫌だとか思ってしまうことなので、大変だけど楽しいとか、自分なりに納得できる点を見つけて、そこをどんどん伸ばしていけば楽しいし、それを見て「何か楽しいことをやっている」と周りも寄ってくるんですね。何をしたらよいかわからない場合は、まず周りを掃除してみることも有効です。周りをきれいにしたり体を動かしているうちにヒントが出てきます。

Q 旧小坂鉄道の車両や設備を活用したイベントを行う際に工夫したことはありますか？

A おもてなし演出のため当時の小道具を揃えたりしました。まずは格好から入りたかったのですが、昔の衣装が自分の背丈に合わず、格好から入れないなどの苦労もありました。

特定非営利活動法人 どんぐり1000年の森をつくる会さんにインタビュー

Q 25年間活動を続けていらっしゃると聞いて、すごいことだと思いましたが、何か活動を続ける秘訣はありますか？

A 現在の会長が3代目になりますが、うまく引継ぎされてきたことが良かった点だと思います。
今だけでなく未来のために頑張ろうという目的がはっきりしているので賛同してくださる方が多く、年齢を重ねることで活動ができなくなった人がいても、後を継いでくれる方がどんどん出てくるので、常に会員も130人程度います。

現実的な問題と向き合いながら地道に続けていくことも大事に

手づくり郷土賞選定委員会 野澤委員にインタビュー

Q 金沢などの多くの地域で町屋・空き家の保今活用に関して問題を抱えている中、私たち大学生も新しいアイデアを考えているのですが、気を付けることはありますか？

A 社会人はお金のことを考えなくてはいけない点でしょうか。それが一番シビアなことかもしれません。提案をしても費用の話になったときに、誰が出すのかなど考える必要があります。
また、例えば良い町屋があっても、利用するために家主さんと交渉しなくてはいけません。現実的な問題をどうやって突破していくかが、学生さんに求められる力かもしれません。

Q 自分たちが定期的にイベント企画を行っていく中で、同じことの繰り返しになる場合もあるのが悩ましいです。

A 新しいアイデアはそんなに出てくるものではないので、やり続けることも大事です。何回も同じことをやっていたとしても、一人でも新しい人が増えればそれは意味があることで、新しい人が見て“こんな方法があるんだ、うちでもやってみようか”と少しでも思えば、それは成果になると思います。
また、学生が町屋を活用して取り組んでいるということを、メディアなどを活用して売り込んでいくのも良いのではないかと思います。

インタビューを終えて

●**山岸功治さん** 金沢工業大学経営情報学科3年（当時）
日本全国にはこれほどまでに熱い感情を持って地域を盛り上げていくやる気に満ちた方々がいらっしゃることに非常に強い感銘を受けました。一つ一つの取り組みの具体性であったり、個性を生かす手段は今後の私たちの活動にも非常に役立つアイデアで満ち溢れていました。この輪が全国に広がっていくと日本の未来が輝かしいものになるのは確実です。この輪を私たちのような若者が引き継いでいく大切さにも気づかせていただきました。

●**泉ひかるさん** 金沢工業大学経営情報学科1年（当時）
発表会に参加して、全国各地で町おこしをするためにこんなに沢山の人が協力し合っているんだと実感しました。高齢者から子供まで、幅広い年齢層でとても驚きました。私も大学のプロジェクトで地域創生の活動をしています。皆さんの発表を聞いて、もっと地域活動に取り組み地元を盛り上げたいと思います。とてもいい刺激になりました。

●**島崎聖子さん** 金沢工業大学経営情報学科1年（当時）
発表会に参加して、各団体の代表の方が生き生きと話されている姿がとても印象的でした。地元への愛とこれまでの活動に自信を持っていることが強く伝わってきました。町おこしは一人の力では出来ません。目標を掲げて、全員が一致団結していくことが求められ、親睦も深めながら信頼関係を築くことからスタートになるのだと思います。それにより、情報交換や意思疎通がスムーズに進み、成果に繋げることができると感じ、まさに「コミュニケーション」が重要であると思いました。私も今後、地域社会での活動に積極的に参加して、コミュニケーションやチームワークを大切にしながら、目的を達成できるようにしたいです。